

——『波濤の先に』も『波と雪とその向こうにあるもの』と同じ撮影場所、岩瀬浜での撮影ですよね？
どうして海に行きたくなるんですか？

『波と雪とその向こうにあるもの』の時は、聞こえてくるのは波の打ちつける音だけ。辺りは暗くて、人が誰もいなくてとても怖かった。それなのに、どうしてですかね…。時々無性に波の音が聞きたくなるんです。自分の気持ちが沈んでいる時はそうなのかもしれません。

『波濤の先に』は、昇ってくる朝日を見ようと海に行きました。波の音を聞いて、自分の心と対峙したくて。時期は12月中旬の爆弾低気圧の日。富山県独特の波がうねりながらドーン、ドーン、と音を立てて響いていましたね。…どうして冬の海に行きたくなるんだろう(笑)。



『波濤の先に』

——Aboxではステートメントを大切にされていますよね。グループ展でもステートメントを書かないといけない。最初の頃はステートメントは書けましたか？

『波濤の先に』を金沢21世紀美術館で展示した時はステートメントを出していなかったんですけど、KG+で展示する事になって、初めてステートメントを書きました。初めてのステートメントは何を書けばいいのか、全く分からなくて、高崎先生に相談しましたね。そうしたら、「どうして海に行ったの？」

「その時、自分の中で音楽は流れていたの？」と、色々質問されたんです。そうした言葉のキャッチボールを続けて、自分の気持ちが引き出されて、言葉にする事が出来たんです。それが私の初めてのステートメントになりました。

